

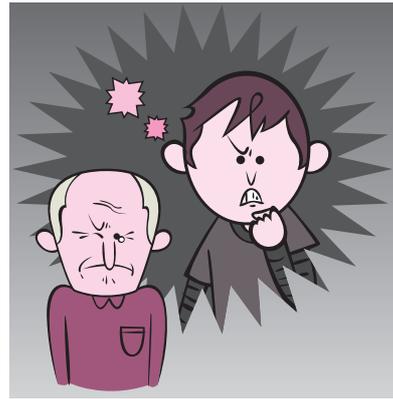


ダメ！高齢者虐待

心理的虐待と身体的虐待

1年前から認知症状が見られるようになった父親と暮らすAさん。父親は徘徊したり、食事をしたことを忘れたりするなど、見守りや介護が必要な状態です。しかし、Aさんには介護を手伝ってくれる兄弟や親せきはいません。また、相談先も分かりませんでした。

父親の徘徊は日を追うごとに増え、もの忘れもひどくなり、Aさんの負担は増す一方です。次第にAさんは自分の時間が持てなくなり、「いつまでこんな生活が続くのだろうか」と強い不安を感じるようになりました。介護疲れがピークに達したある日、Aさんは父親が言うことを聞かないことに腹を立て、思わず怒鳴ってしまいました。その時は、自己嫌悪に陥ったAさんでしたが、その後も、父親が言うことを聞かないことがあると、Aさんは怒鳴ったり、時には強くたたいたりするようにになりました。その後、Aさん親子の様子がおかしいと気付いた知人が、地



域包括支援センターに相談。Aさんの介護負担を減らすために、介護保険サービス（デイサービスなど）を利用することになり、その結果、Aさんは自分の時間を持てるようになって、虐待はなくなりました。

このように、どんな家庭でも高齢者虐待は起こり得ます。『何かおかしい』『どうしたらいいんだろう』そう思ったら、気軽に相談窓口連絡してください。

- ▼高齢者虐待に関する相談窓口
- 高齢・介護グループ (☎855720)
- または地域包括支援センターあおい (☎830511)・ゆのか (☎882106)・「けいあい」(☎825005)

人が輝き まちがときめく

仲間たち Group

絵手紙サークル

『絵手紙サークル』は、『下手でいい、下手がいい』を合言葉に、平成12年6月に友人5人で結成しました。

会員は現在15人。毎月2回木曜日に婦人センターで活動しています。

「絵手紙は、はがきに筆と墨や顔彩（水墨画の絵の具）を使用し、植物や小物などを描き、言葉を添えて贈っています」と話すのは代表の藤井節子さん。

「絵手紙づくりは、人と人の和物の大切さから地球環境まで、幅広く考えさせられる貴重なひとときです。手先を使い、皆さんと会話を楽しむとともに脳が活性化させられ、痴呆防止や病後のリハビリにもなると思います。また、一番の



喜びは絵手紙を出す時と『元気をいただいたよ』とか、『わたしも書いてみたい』といった返事をもらった時です。筆無精の方でも文章が短いので始めやすいと思いますよ」と、藤井さんは絵手紙づくりのすばらしさについて話してくれました。

4月に入会した嶋田京京さんは、「3月に仕事を辞めたのを機会に、サークルなどで趣味を楽しみたい」と思い入会しました。最初は、経験が無かったので不安でしたが、皆さん親切丁寧に教えてくれるので短期間で慣れました。絵手紙の話だけでなく日常の話題も多く雰囲気が大変良いので、毎回の活動日に来るのが楽しみです」とこやかに話してくれました。

入会を希望される方は、藤井さん(☎833124)までどうぞ。



常に楽しい絵手紙づくりを心掛けて皆で楽しんでいます